

特集 高品質果実の生産技術

高品質果実の生産技術

本県は全国的にも有名な「丹波栗」をはじめとして、地域的に特徴ある多彩な果樹が栽培されている。これらの特産果樹におけるブランド力強化のためには、さらなる果実品質の向上を図る必要がある。そのためには、優良品種への更新や栽培管理の改善はもとより、収穫作業の適正化や収穫後の品質管理も重要である。そこで、最近の取組

の中から、ブドウ優良品種の高接ぎ更新、新樹形によるイチジクの品質向上、アサクラサンショウの収穫適期判定及びクリの貯蔵害虫防除に関する新技術について紹介する。

吉田 晋弥（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

休眠枝を用いたブドウ優良品種への高接ぎ更新法

ブドウの未収益期間短縮のため、高接ぎによる更新法を検討した。その結果、3月に主枝を切断し、5月下旬～6月上旬に休眠枝接ぎを行うことにより、翌年には「シャインマスカット」で12kg/樹（試算）の収量が得られた。

内容

ブドウの経営安定にはし好性の高い優良品種の導入が望まれるが、苗木による更新では成園化に5年程度要し、一般的な緑枝による高接ぎは活着、伸長等が不安定である。そこで、休眠枝を用いた高接ぎ法を検討した。

21年生「藤稔」に「シャインマスカット」を6月9日に接ぎ木した。活着はいずれも良好で、新梢長は主枝への休眠枝接ぎが最も長く、次いで緑枝への休眠枝接ぎ、緑枝への緑枝接ぎの順であった（表1）。また、休眠枝の接ぎ木時期では、6～8月の間活着は良好で、早いほど新梢伸長量が多かった（表2）。

22年生「ピオーネ」における主枝の切断及び接ぎ木時期では、3、4月の切断、高接ぎは接ぎ木が困難で活着しなかったが、3月切断、5月接ぎ木は活着容易で、新梢伸長も旺盛であった（表3）。また、5月切断、高接ぎは樹液の溢泌が多く、穂木は活着しなかった。なお、3月切断、5月接ぎ木の場合、翌年には約3kg（4主枝に接ぎ木すると約12kg/樹）の収量が得られた。

今後の方針

結実以降の生育や収量、品質の推移、他品種や中間台の条件等について調査する。

水田 泰徳（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

表1 接ぎ木部位、穂木の種類と活着、新梢伸長

| 接ぎ木部位 | 穂木の種類 | 活着数/接ぎ木数 | 新梢伸長量 (cm) |
|-------|-------|----------|------------|
| 主枝 | 休眠枝 | 4/4 | 401 |
| 緑枝 | 休眠枝 | 2/2 | 296 |
| 緑枝 | 緑枝 | 2/2 | 116 |

注)接ぎ木部位が主枝は剥ぎ接ぎ、緑枝は割り接ぎ

表2 休眠枝の接ぎ木時期と活着、新梢伸長

| 接ぎ木時期 | 活着数/接ぎ木数 | 新梢伸長量 (cm) |
|-------|----------|------------|
| 6月9日 | 4/4 | 401 |
| 7月6日 | 3/3 | 302 |
| 8月1日 | 3/3 | 90 |

注)主枝への剥ぎ接ぎ

表3 主枝の切断、接ぎ木時期と活着、新梢伸長

| 試験区(時期) | 活着数/接ぎ木数 | 新梢伸長量 (cm) |
|----------|----------|------------|
| 主枝切断 高接ぎ | | |
| 3月 3月 | 0/2 | 0 |
| 3月 5月 | 2/2 | 550 |
| 4月 4月 | 0/2 | 0 |
| 5月 5月 | 0/2 | 0 |

注)主枝への剥ぎ接ぎ